



西宮市議会議員

田中まさたけ

正 剛



<http://masatake.jp/>

田中まさたけ

検索



市政・市議会報告

将来にツケを残す政治からの脱却

旧態依然とした行政運営に固執する西宮市役所の人事費は全国トップクラスです。

限られた財源で、住環境、住民福祉を向上していくためには、民間との協働は不可欠です。

自治体トップの意識が変わらなければ、お役所仕事体質は変わらず、民間との協働は困難です。

それは、新型コロナウイルスのワクチン接種の体制づくりにおいても露呈しました。

住民が負うことになる「ツケ」を残すことにならないよう、「お役所仕事体質」に早くメスを入れるべきです。

提案する政治

市議会から西宮市に対して情報提供を求める意見書を提出。

■「オープン西宮」の公約はどうなったのか

このたび、ワクチンの接種予約において、市民の皆様にご迷惑とご心配をおかけ致しました。市は、準備段階から積極的に情報を開示し、生活者の視点で広報し、民間との協働を徹底するべきであったと考えています。市長が前回の選挙で訴えていた「オープン西宮」の実現には、ほど遠い状況と言えます。

そこで西宮市議会では、5月28日の議会運営委員会の協議を経て、議長が代表して以下の意見を市に対して提出しました。

① ワクチン接種の予約・進捗状況、ワクチンの供給状況といった全体の進捗状況を市政ニュース・市ホームページ等を通じて、早急かつ詳細に広報すること。

② ワクチン接種計画の全体像を早期に、詳細に示すこと。

③ 市当局内および医師会との協議・決定内容を市政ニュース・市ホームページ等を通じて、随時、詳細に広報すること。

④ 接種後も含めた、ワクチンに関する正確な情報の提供に努めること。

■これからも市政の情報発信を続けます

私のホームページにおきましても、ワクチン騒動に関する市の問題点と改善すべき点を掲載しています。また、この市政・市議会報告のバックナンバーも掲載していますので、ホームページもチェックしてください。

令和3年5月15日コラム ▶

「感染症対応とお役所仕事のツケ」



市民憲章(昭和45年11月3日制定)

美しい風光と豊かな伝統のまち、西宮の市民としてこの憲章を定めます。

これは未来へはばたくわたくしたちの合い言葉です。

「その2 西宮を 教育と文化のかおり高いまちにしましょう。」

中央体育館・陸上競技場等再整備事業が中断。

■市立中央体育館の老朽化対策は不可避

西宮市立中央体育館は1965年に竣工し、稼働してから55年以上が経過しています。そして、昨年度に予定通り再整備事業を進めていても、新体育館が稼働するのは4年後のことでした。にもかかわらず、新型コロナウイルス感染症の影響により財政状況を不安視した西宮市は、入札直前で事業を止めました。そして、令和3年の夏をめどに財政収支見込みを策定して事業の可否を判断するという方針を示しただけで、老朽化対策の代替策など選択肢を準備することなく1年が経過しました。

公共施設は計画的に建替えるか、不要であれば廃止するか決断しなければ、着実に老朽化は進み、財政だけでなく利用者の安全にも影響を及ぼすことになります。つまり、決断の先延ばしは、将来世代にツケを残すだけの無責任な対応と言えます。

■再整備項目ごとの概算事業費

整備項目	概算事業費
体育館(武道場含む)	89億円
陸上競技場	17億円
園路・子供の遊び場等広場	14億円
防災施設	1億円
雨水貯留槽等	10億円
その他解体費等	16億円
合計	147億円

財源	国交付金	36億円
	市負担	111億円

(消費税10%含む)

■問われる市政運営能力

この事業は、民間企業の資金と経営力を活用する事業手法(PFI手法)により整備する予定でした。このような時こそ、民間との協働により、この事業手法の真価を発揮すべき時です。

にもかかわらず、スピード感に欠ける市政運営の結果、中央体育館をホームとするプロバスケットボールチームが神戸市に移転することが、令和3年2月に発表されました。民間との協働力不足が露呈した事例です。

大規模改修費用を積み立てていませんので、今までは、メンテナンス費用がかさみ、財政を圧迫することになるのは明白です。また、市民の健康増進、青少年健全育成、介護予防など、この体育施設が市民生活に及ぼす効果は小さくありません。そして、このたび新型コロナワクチンの大規模接種会場にも使用され、災害時には避難所の拠点にもなります。安心安全の観点からも、不要不急ではないことは明らかです。一刻も早く、再整備を進めるべきなのです。

今後、市に対して施設の必要性と維持管理に対する考え方を追及してまいります。



平成30年度に視察した富山市総合体育館
平成11年度竣工、平成29年度リニューアル

来館者数の減少が課題。 税投入に対する効果を高める改善が必要です。

■大谷記念美術館(以下、美術館)の課題

昭和47年に開館した美術館は、外郭団体「公益財団法人西宮市大谷記念美術館」が運営しています。伝統・文化の価値、技術を後世に伝えていく必要があり、この外郭団体に対して、多額の運営費を補助してきました。そして私は、平成28年度に約10万3000人であった来館者数が毎年減少し続けて、令和元年度には約5万3000人にまで減少していることを問題視しています。

■西宮市の文化振興経費(令和3年度予算)

- 市民文化費：2億5550万円(前年度比14.4%減)
うち、美術館運営補助：1億3000万円(23.1%減)
- 市民文化施設費：6億8160万円(3.7%増)
うち、美術館改修補助：3740万円(6.8%減)

■ようやく運営改善策を発表

本年2月に、「入館者数及び有料入館者率向上策の検討」など24項目もの改善策が示されました。貴重な財産を有効活用できるよう、特に、子供たちの学習機会や、多くの方々が作品に触れる機会を創り出す不断の努力が必要であると考えています。今後、まだ具体性に欠ける改善策の動向と成果を注視してまいります。



財源確保の目標を明示した財政構造改革が急務。

■令和3年度予算は貯金の取崩し額が上昇

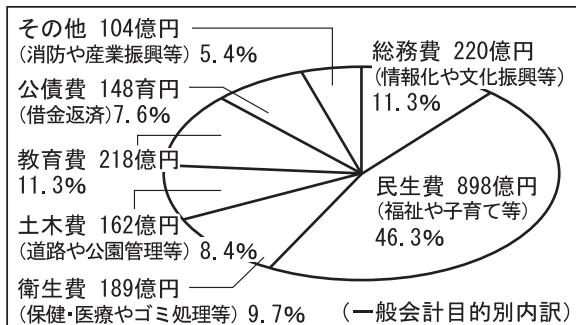
令和3年度一般会計予算は、前年から約8億円(0.4%)増加して1939億円となりました。

歳入は、新型コロナウイルス感染症の影響により、市税収入が前年より26億円(3%)減少して851億円になると見込んでいます。そして、財源不足を補うため、財政基金等(市の貯金)からの繰入金を前年より約22億円増やし、94億円としました。その結果、年度末の基金残高が約172億円になると見込み、1年で33%も減少する内容となっています。これは今回の感染症の拡大のみが原因ではなく、元々抱えていた構造的な問題が顕在化してきた結果です。

■課題を先送りする体质からの決別を

支出は、人件費が前年度とほぼ同額の約383億円と全体予算の約20%を占めています。また、生活保護費や医療費助成などの扶助費は、

前年度より9億円増加し564億円と見込んでいます。一方で、施設の再整備等に必要な投資的経費は抑制され、前年度から約17%減の208億円となっています。これは単に、将来世代に公共施設の老朽化対策などの避けられない課題を先送りしただけであり、今後、抜本的な財政構造改革が急務であると考えています。



新型コロナウイルスワクチン接種事業など対策事業の実施に伴う保健予防費及び保健所費の増額分(36億円)は衛生費に含まれています。

図書館でのICT活用を提案してから15年。

■図書館運営におけるICT技術の活用

西宮市には、中央、北口、鳴尾、北部図書館と7分館があります。私は平成16年6月議会一般質問において、図書館管理業務の効率化を目的として、図書にICタグを取り付けて非接触で図書の管理をするRFIDを活用した図書管理システムの導入について議論したことがあります。15年の時を経て、感染症拡大防止対策として西宮市の図書館にシステムが導入されました。



■導入及びメンテナンス予算(千円以下切り捨て)

ICタグ(114万3000枚)貼付経費:9480万円

自動貸出機(8台):2014万円

セキュリティゲート(4セット):1909万円

その他機器導入に係る経費: 1544万円

システム保守業務(令和3年度予算):72万円

■将来の技術革新を見据えた図書館運営を

今回の図書管理システムを導入するために、国の臨時交付金を活用して、約1億3000万円の導入経費を投じました。今後、システム活用による業務の効率化とサービス向上について効果を検証する必要があります。

また昨年、中央図書館の移転を含めた本庁舎周辺公共施設再整備構想(中間報告)が示されました。デジタル化やAI技術が発展する中で、図書館の利用形態も大きく変化することが予想されます。情報収集に長けた民間企業が管理運営を担う「指定管理者制度」の導入も含めて、将来の技術革新や社会構造の変化を見据えた検討が必要です。ご意見や情報をお寄せ頂けましたら幸いです。



約束のかたち:「市政・市議会報告」の発行の継続、「市政報告会・意見交換会」の開催

このチラシは、単なる広報やPR誌ではなく、市民の声を聴くきっかけとなる広聴のためのチラシでもあり、選挙前だけではなく定期的に作成してきました。このチラシを見て、掲載内容以外のことも含めてご意見を寄せてもらっています。すぐには実現できない内容も多いですが、だからこそ、今すぐ着手しなければならないこともあります。諦めずにご意見や情報をお寄せ下さい。そして、「市民との対話なくして真の政策なし。」との信念のもと、感染対策を講じながら意見交換を継続したいと考えています。

発行責任者

田中正剛 たなか まさたけ

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市会議員事務所に4年間勤務/平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選(27歳)

■担当委員会:健康福祉常任委員会 ■政党:自由民主党

■市議会での主な役職:厚生常任委員長(1期3年目)、西宮市監査委員(2期1年目)、フレンチ問題特別委員長(2期3・4年目)、病院問題特別委員長(3期1・2年目)、阪神水道企業団監査委員(3期3年目)、西宮市議会副議長(3期4年目)、建設常任委員長(4期2年目)、第8代西宮市議会議長(4期3年目)、民生常任委員長(5期2年目)

profile



■61号:西宮市役所に真の改革を

連携公立幼稚園、令和元年度決算、ゴミステーションのカラス対策について掲載。

■62号:西宮市民の命を守る機能

福祉関係経費、産後ケア事業、コロナ禍での介護環境の維持、市立中央病院の役割について掲載。

◀スマートの方は、こちらからQRコードをご覧いただけます。

